

みんゆう環境賞に4団体

工夫凝らし活動

27日贈呈式

県内で環境保全に力を注ぐ団体を福島民友新聞社が「みんゆう環境賞」の本年度受賞団体が決まった。今後の活動計画を応援する「チャ

Q みんゆう環境賞 かけがえのない自然環境を守るため、福島民友新聞社が2002（平成14）年度に民友環境基金を創設。これを基に、県内で環境保全に取り組む団体やグループに活動資金を贈って支援している。受賞団体は今回を含めて63団体。

額70万円が贈られる。

【4面に関連記事】

レンジ部門」に2団体、活動実績を評価して功績をたたえる「顕彰部門」は2団体が受賞した。活動資金の贈呈式は27日に福島民友新聞社で行われ、4団体に総

体が選ばれた。

審査会は18日までに福島民友新聞社で開かれ、県本野鳥の会連携団体連合の白岩康夫会長を審査委員長に、遠藤洋泉環境共生長、渡辺明福島大名誉教授（地球物理学）、石原明世界自然保護基金(WWF)ジャパンシニアアドバイザー、五阿弥宏安福島民友新聞社社長の5人が審査にたった。

みんゆう環境賞は2002（平成14）年度に創設。東日本大震災の影響を考して11年度に表彰を中断したが、環境問題への継続的な取り組みを支えていくため、13年度に再開した。

受賞団体

- チャレンジ部門
 - ▽ 浅川小 (浅川町)
 - ▽ 南湖森林公園案内人の会 (白河市)
- 顕彰部門
 - ▽ 大戸小 (会津若松市)
 - ▽ はるなか (会津若松市)

サギソウを大事に育てる



浅川小生活委員会・山田翔太君（5年）これから学校内の「探究の森」で浅川町の花「サギソウ」を育てていく。全校生に呼び掛けながら、みんなで大事に育てていきたい。花を見るのがとても楽しみ。

公園の豊かな自然を守る



NPO法人南湖森林公園案内人の会・薄葉正雄理事長 これまでの活動が認められた。さらなる環境保全に意欲を燃やしている。今後も同公園の豊かな自然を守り、魅力PRのため、尽力していきたい。

保護者と地域の理解 感謝



大戸小・杉原武校長 当校ならではの取り組みは保護者、地域の理解なしにはできなかった。活動を継続し、連携してきたことが評価された。児童は活動に誇りを持っており、これからも手を抜かずに続けたい。

取り組み次世代につなぐ



NPO法人はるなか・佐藤光信理事長 地道な活動が評価されてうれしい。目先にとらわれず、10年、20年という長い期間で行っている取り組みのため、次の世代にしっかりとつなぎ、息の長い活動にしたい。

グ大会を通じた環境教育や森林保全に取り組むNPO法人南湖森林公園案内人の会（白河市）の2団体。顕彰部門は「花と緑の小学校」として通学路の清掃や植栽を続けてきた大戸小（会津若松市）と、里山再生に向けて漆の木の植樹などに取り組んできたNPO法人はるなか（同）の2団

チャレンジ部門

地道な活動評価

みんなの環境賞

県内で環境保全に取り組む団体の活動を後押しする「みんなの環境賞」の本年度審査会では、各団体の気持ちのこもった活動や、地道な取り組みを評価する声が上がった。受賞団体の活動実績と計画を紹介する。【一面に本記】

支援団体の審査に
当たる審査委員
＝福島民友新聞社



浅川小

【活動実績】「森と学校の共存を目指し、身近な場所での自然環境を守る意識を学んでもらおう」と昨年10月、校庭の一角にミニ森林「探究の森」を整備。キンモクセイ、ヤマツツジ、サザンカ、コナラなどの樹木が植えられ、児童らの森林学習に活用されているほか、癒やしの場にもなっている。

校庭に「探究の森」整備



「探究の森」の手入れに汗を流す児童ら

【活動計画】「探究の森」にある樹木や草花を観察しながら大切に守り、より自然に近い状態で維持していく。浅川町で見ることが難

環境教育として有効

白岩康夫
審査委員長



講評

いずれも顕彰に値する団体だった。チャレンジ部門の浅川小の子どもたちが希少な「サギソウ」の育成に取り組んでいくことは、小さいころからの環境教育として有効だと感じた。同じくチャレンジ部門の南湖森林公園はウオーキングを活動計画に取り上げている。ウオーキングは人を集めることができるので、こうした機会を利用してさらに環境教育に結び付けてほしいと思う。

南湖森林公園案内人の会

【活動実績】2012(平成24)年に設立。白河市南湖森林公園を中心に芝刈りや遊歩道管理、除伐など自然保全に取り組んでいる。地域住民などイベントを協力して開き、地域貢献活動にも力を入れる。また、市内の小中学生を招いての自然観察会で、環境学習の普及にも努める。

小学生招き自然観察会



自然観察会を開催する会員ら

【活動計画】環境保全の継続と環境学習のさらなる普及を推進する。今年には、遊歩道の草刈りや木階段の補修を図り、同公園の景観

顕彰部門

大戸小

【活動実績】1991(平成3)年から同校の3、5年が緑の少年団として活動を展開。校内に多くの花壇を設け、土作りから手入れまでを児童が中心となり行っている。昨年は支援に感謝するため住民らに菊の鉢植えを贈った。学校周辺の自然観察や清掃活動、募金活動などにも力を注ぐ。

児童中心の花壇づくり



地域の施設に贈るプランターの苗植えを行う児童

【活動計画】児童数が減少しているが、保護者や地域住民らにも苗植えへの参加を呼び掛けるなどで花と緑の少年団活動を継続する。

る。学区内で森林や大戸岳などの

はるなか

【活動実績】会津藩中興の祖田中玄幸にちなみ「漆の里」を目指し2004(平成16)年に設立した。会津若松、喜多方両市に漆の木を植え、地場産の漆による漆器の再興を目指す。会津若松市の小田山や青木山では生物多様性の高い里山に再生する取り組みや玄幸の墓前祭も行っている。

漆器の再興へ漆を植樹



観察会で自然を満喫した参加者

【活動計画】会員、ボランティアによる植樹地の作業場の整備や植樹の枝切り、施肥などを継続する。関係団体と共催し、自然観

測や歴史に関するイベント、来年